

蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 第1回会議録

招集日	平成27年6月4日(木曜日)	
開催場所	蓮田市役所 3階 301会議室	
開催日時	開会 平成27年6月4日(木) 午前9時30分 閉会 平成27年6月4日(木) 午前11時15分	
出席状況	会長 中山 和久	出席・欠席
	副会長 浅田 章裕	出席・欠席
	委員 中里 幸一	出席・欠席
	委員 廣本 覺	出席・欠席
	委員 田口 真悟	出席・欠席
	委員 吉澤 一徳	出席・欠席
	委員 島田 道太	出席・欠席
	委員 高橋 恵美子	出席・欠席
	委員 寺澤 亜希子	出席・欠席
	委員 黒堀 英俊	出席・欠席
出席職員	<p>【蓮田市まち・ひと・しごと創生本部員】</p> <p>蓮田市長 中野 和信 副市長 新井 勉 教育長 西山 通夫 総合政策部長 (新井 勉) 総務部長 若山 克美 環境経済部長 岩瀬 英幸 健康福祉部長 椿本 美栄子 都市整備部長 細井 盛賢 西口開発部長 岩崎 弘 上下水道部長 亘 宏邦 会計管理者 加賀谷 武憲 消防長 岡野 和男 学校教育部長 宗方 健二 生涯学習部長 小林 健一郎 議会事務局長 千代 康弘 監査委員事務局長 田口 久雄</p>	<p>【事務局】</p> <p>総合政策部調整幹 田島 幸則 総合政策部次長兼 政策調整課長 渡辺 実紀夫 政策調整課 副主幹 山田 百合子 政策調整課 主任 水沼 哲也</p>
その他の出席者	オブザーバー(人間総合科学大学 井上雅之) ㈱ジャパン総研(守屋翔太、小林幹夫)	
傍聴者	2名	

資料の確認 1. 開会 2. 委嘱式 ・市長挨拶	(略) (田島調整幹) 【中野市長より、まち・ひと・しごと創生有識者会議委員に委嘱書の交付】 (蓮田市長 中野和信) 皆様おはようございます。本日は平成27年度第1回蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。ただいま委嘱書をお願い申し上げましたが、非常に重要な会議でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。 本有識者会議の主旨等の内容につきましては、後ほど担当からご説明申し上げます。市では、この度、国が率先して取り組んでおります、まち・ひと・しごと創生に先立ちまして、数年前からこの蓮田市の将来を見通した街づくりがどうあるべきか、議員の皆様や多くの方々、もちろん我々職員一同、様々な角度から検討して、いろいろな事業を進めているところでございます。そのような蓮田市の事情もあいまって、今度は、国がリーダーシップをとって、全国的にこの事業を、しかも財源的な裏付けを伴って、取り組んでいただけるということでもあります。他の自治体も同様だと思いますけれども、蓮田市にとってもこれは最大のチャンス。もう一度、国レベル、県レベル、或いは有識者の皆様のいろいろなご意見をいただきながら、蓮田市の将来のある街づくりに取り組むには最大のチャンスという捉え方を致しまして、取り組むということになりました。 蓮田市は首都圏40キロ圏内、2月6日からはサービスエリアの上り部分がそっくり移転という大規模なプロジェクト事業がNEXCO東日本で始まりました。3月14日からは上野東京ラインが開通いたしました。或いは北のほうは圏央道が間もなく、特に西側について全線開通ということでもあります。蓮田市の一番北になるのですが、市では25ヘクタールほどの工業団地の誘致を進めようと今取り組んでおります。いろいろな意味でハード事業、或いはソフト事業について、今もう一度事業を見直そうといいますが、練り直そうという時期に差し掛かっているときでございました。先程も申し上げましたように、首都圏40キロ圏内ということで立地条件が非常に宜しゅうございます。片や、やはりこの創生会議のテーマにもなっておりますが、東京一極集中の問題もございまして、或いは、隣には人口120数万の埼玉県随一の大型都市である政令指定都市さいたま市が控えているといった状況もございまして。そういった中での衛星都市としての蓮田市の存在が問われているところでございました。ずっと長い間にわたりまして、対東京、或いは対さいたま市ということで取り組んでいたところが若干ございました。しかし、現実の問題として、そのような対立の構図で蓮田市の街づくりを進めていたのでは、いつまで経っても平行線である、蓮田市の街づくりは進展しないという認識を持っているところでございました。「首都圏40キロ圏内にある蓮田市」、或いは「隣に政令指定都市さいたま市を抱えている蓮田市」という立地条件を認めながら、この蓮田市の街づくりはどうあるべきであるかということを考えていった方が、蓮田市の存在としてはむしろ良いのではないかと、そのようなことも考えているところでございます。 市には総合振興計画があるのですが、これも平成29年で一度現計画の期間が終了いたしますし、つまりあと2年後、来年辺りからこの総合振興計画の見直しも始まる時期にかかっておりまして、そういった意味で何度も申し上げますが、この有識者会議は非常に重要な会議、また存在になると思います。皆様方におかれましては、只今ご委嘱申し上げましたお立場で大変お忙しい方々でござい
---	---

	<p>ますが、この蓮田市の事情をつぶさにご検討いただきまして、積極的なご意見、ご提言を賜れば大変ありがたいと思います。長くなりましたが、本当にお世話になります。どうぞ宜しくお願いいたします。ありがとうございました。</p>
定足数の確認	<p>(田島調整幹) 会議開催要件の説明、出席者数(8名)、会議成立の報告。</p>
委員自己紹介	<p>(田島調整幹) 本日の会議は第1回目の会議でございますので、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと存じます。</p>
本部員、事務局自己紹介	<p>【委員自己紹介】</p> <p>(田島調整幹) 本日は庁内で組織する、蓮田市まち・ひと・しごと創生本部の本部員も会議に同席いたしております。資料1の裏側にある名簿の順に自己紹介させていただきます。また、あわせて事務局職員の自己紹介もさせていただきます。</p> <p>【各本部員自己紹介】</p> <p>【事務局職員自己紹介】</p> <p>(田島調整幹) 続きまして、この会議は大学との連携を深めるということから、人間総合科学大学から、井上様がオブザーバーとしてご参加しております。</p> <p>【オブザーバー自己紹介】</p> <p>(田島調整幹) 続きまして、総合戦略策定に係る業務を委託しております株式会社ジャパン総研から守屋様、小林様が出席しております。</p> <p>【株式会社ジャパン総研自己紹介】</p>
3議事 1) 会長、副会長の選出	<p>(田島調整幹) ○会長の選出について 中山和久委員を会長に選出 ○副会長の選出について 浅田章裕委員を副会長に選出</p>
会長・副会長挨拶	<p>(中山会長) 会長を拝命致しまして、本当にありがとうございます。産・官・学、ということで、連携をしっかりと図っていきたいと思います。委員の皆様方にご協力宜しくお願いします。</p> <p>(浅田副会長) 改めましておはようございます。この度副会長という大役をお預かりいたしました一般社団法人蓮田青年会議所、本年度理事長を務めております浅田章裕</p>

<p>傍聴希望者の 確認</p>	<p>と申します。どうぞ宜しくお願い致します。我々の団体は、明るい豊かな社会の実現というスローガンを掲げ活動しております。それ以前に2人の子どもを持つ親としての意見も反映させながら、このまちをどう良くしていくかということについて話をしていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。中山会長とはつい先月、白岡蓮田子ども大学というのを今年から始めていこうではないかというところで繋がりが出来て、一緒に今協議をしているところでございます。2年間という任期ではございますが、しっかりと会長をサポートしていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。</p> <p>(田島調整幹) 傍聴人の確認、傍聴希望者2名の報告</p>
<p>2) まち・ひと・しごと創生事業等について</p>	<p>(田島調整幹) では、これより先、蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第6条第2項の規定により、中山会長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。それでは中山会長、どうぞ宜しくお願い致します。</p> <p>(中山会長) それでは議事の(1)に関しましては終わりましたので、会議次第に従い、これから(2)まち・ひと・しごと創生事業等について、入りたいと思います。事務局から内容についての説明を宜しくお願いします。</p> <p>(事務局) 【資料2～5説明】</p> <p>(中山会長) 只今事務局から報告がありましたが、資料5までの前提、要件につきまして、何かご質問ご意見ございますでしょうか。</p> <p>(田島調整幹) 只今吉澤一徳様がお越しになりましたので、委嘱をさせていただきたいと存じます。</p> <p>【中野市長より、吉澤委員に委嘱書の交付】</p> <p>(田島調整幹) どうぞ宜しくお願い致します。それでは吉澤様、お越しになってすぐで申し訳ありませんが、皆様自己紹介をしております、吉澤様もどうぞ宜しくお願い致します。</p> <p>【吉澤委員自己紹介】</p> <p>(田島調整幹) ありがとうございました。どうぞ宜しくお願い致します。それでは中山会長、宜しくお願い致します。</p> <p>(中山会長) 吉澤委員がいらっしゃいましたが、今、資料5までをご覧いただいております。既に委員の皆様方には事前に配布されて、お目通しいただいていると思</p>

ます。そちらのほうで何かご意見ご質問がございますかということで、今やっておりますが、如何でしょうか。

(島田委員)

一つご質問なのですが、スケジュールの中で関係機関、団体等へのヒアリング調査というのが予定されているのですが、今の段階でどのような所へどのような調査の仕方をするのかというイメージをお知らせいただければありがたいです。

(事務局)

今現在まだ予定という段階なのですが、大学や銀行等との連携も必要だと考えております。また、社会福祉協議会、シルバー人材センター、子育て支援団体、そういったところを検討中でございます。

(島田委員)

ありがとうございます。

(中山会長)

他に何かございますでしょうか。

(廣本委員)

中身を踏み込む話ではなかったのですが、一つだけ大変興味があつて、どのように捉えるのかだけお聞きしたいのですが、資料3の蓮田市の人口動向についての図表1です。先程の説明で1998年、平成10年をピークにして、そこから落ちてきていると言っております。ピークになったのはベッドタウン化ということで、勤務地は都心だろうが、住まいは蓮田を選んだということだと思えます。そこまで説明がありました、減っていった理由は何だったのかということをごどのように捉えているのかちょっとだけお教えいただけますか。

(中山会長)

では事務局で把握している範囲でお願いします。

(事務局)

人口分析につきましては、様々なデータを使いまして、これから検証していく形になります。次回8月の会議にはその辺を詳しくご説明出来るかと思えます。宜しく申し上げます。

(中山会長)

3) 市民アンケート調査について

おそらく今、廣本委員からご質問があつたのは資料6のアンケート調査の人口減少に対応するに関わることですね。他に何かございますでしょうか。それではこの前提部分に関しましては、おそらく皆様、既に熟読されて大体ご了解いただけたと思えますので、本題に移りたいと思えます。

続きまして、(3)の市民アンケート調査について、これが我々のミッションの中で一番大きな課題となるのですが、こちらを事務局からご案内いただけますでしょうか。

(事務局)

【資料6～7説明】

(中山会長)

ありがとうございました。只今説明をうかがいました資料6、資料7のアンケート調査につきまして、委員の方々からご意見ご質問がございますでしょうか。

(廣本委員)

私は自分で資料6のアンケートをつけてみたのです。実際には、18歳から40歳未満の人が対象なので私は該当しないのですが、やってみて、この中では問われていない、例えば私共が日頃いろいろ話していることに、なぜ世帯員が減っているのか、とか、なぜ家族が減っているのかということがあります。一番多くがさっき言ったようにベッドタウン化して引っ越してきましたよね。引っ越してきた人達が子育てをどんどん済ませていくと、子供が成長して結婚しますね。結婚すると大体多くの家が2世帯とか3世帯住宅に対応出来ませんよね。すると、若い子達が外へ出るのです。親が追い出されるケースもあるかも知れませんが、大体若い子達が外へ出ていってしまう。そのときに蓮田を選ばないのですよね。違う所へ行ってしまいます。その減っていった分だけが新たに引っ越して来てくれれば良いのですが、それが引っ越して来られていない。そういう2世帯が難しいとか3世帯が難しいとか、そういうことの補助がないとか、そこまで踏み込んだものがここには全然取れないなというのを実感したので、事実がどこまで取れるのだろうか、質問の中に実際の本当の問題点を取り出せていないのではないか、もうちょっと考えた方が良くはないかと思うような部分がありました。

(中山会長)

具体的には資料7のほうで、変えられるところがあるのではないかというご意見ですね。廣本委員からは何か素案みたいなものはございますでしょうか。

(廣本委員)

いや、それで想定されていることが何かをお聞きしたかったのです。私が日頃考えているのはそのようなことですよ。2世帯がなかなか難しいのが1番で、そうかといって、今の人達は大体老夫婦2人住まいとか1人住まいになってしまった人達が実に多いのですが、これが実は自治会を運営する中では大変な問題で困っていることなのです。このような人達をどういうふうに運営していくかということが我々が日頃やっていることなのですが、それに対してどのような補助があるのかについては全く書かれていないし、実際ないのですけれども、そのようなことが必要なかどうかということも分かるようなものも、設問として考えて入れたらどうだろうというふうに感じました。まあ、もっと他に沢山あるでしょうが。

(中山会長)

では、事務局のほうから今の2点ですね。世帯員が減っている、特に若い人たちが独立した際に2世帯3世帯が難しく市外へ出ていってしまう、これに関する何か把握する手立てや素案などはございますか。

(事務局)

資料6につきましてはこの会議に諮らずに出してしまっていて大変申し訳なかったところなのですが、資料7の2回目のアンケートにはそういった質問等について、これから付け加えることも十分可能でございます。さらに2世帯3世帯の同居とかいう部分もございますが、確かに近隣の自治体等では3世帯同居をしている方等につきまして、補助金を交付しているところもございます。蓮田

市におきましても政策研究会議で若手職員を中心に議論をしているのですが、その中でもそういった意見が出てきております。そういったところに繋がるような部分をご質問の中に加えるということはまだこれからも可能でございます。

(廣本委員)

宜しくお願いします。

(中山会長)

今の1点目は恐らく資料7の4ページ辺りの問22とかで対応出来るのかなと、あと大きな4、問23以下でもし出来れば、これはコンサルのほうにも是非入れていただきたいと思います。2点目ですね、老夫婦1人住まい2人住まいというのが、これが非常に市の自治体運営が難しいと。この辺りは資料7のアンケートにつきましては年齢上限が無しということですので、おそらくこの中に盛り込めると思うのですが、事務局のほうで何か考えとか素案などございますでしょうか。

(事務局)

一人暮らしの方でしょうか。そのことにつきましては市内の人数は増えている状況でございます。こちらにつきましては問38、一番最後の設問でございますが、こういった中に、安心して暮らすために特に充実すべきと思うことは何ですか、という設問を設けており、こちらの中に高齢者の方の部分の質問につきましては若干触れています。ただし、それらの具体的な解決策までは触れておりません。

(中山会長)

確かに本題は若い子育てとか、そこら辺が主眼となっているアンケートのようですので、盛り込み方としては難しいところがあるかと思いますが、問38の分析の仕方ですらそこら辺が把握出来れば。

(廣本委員)

そうですね。ですから若い人にとっては子育てと老人対応と両方あるということ、片方抜いてしまうと見えなくなる部分がありますよということだけ申し上げたかったのです。

(事務局)

子育てするにあたって、おじいちゃんおばあちゃんに面倒を見ていただくという部分も大きな施策の一つになるかと思えます。

(中山会長)

確かに廣本委員のおっしゃった2世帯3世帯が出来れば、おじいちゃんおばあちゃんは子供の面倒をみられて、そして人口も流出しないというプランが出来ますので、是非事務局のほうでもアンケートに反映していただければと思います。

その他にご意見ご質問ございますでしょうか。今ちょうど子育てのお話など出ましたので、副会長さんのほうから何か子育てのご意見とか。

(淺田副会長)

資料6はもう配布済みということであり、人口減少に対応する政策に向けてということですので、やはり若年女性人口というのが非常に重要になって来る

のかなというところと、実際に何人子どもが欲しいのかという希望の出生数というものを早急に出してもらった方が、これからどう政策を立てていくかということスムーズに検討出来るのかなというところなんです。戻って申し訳ないが、資料3の合計特殊出生率の推移ということで、県と比べて蓮田市は低いというところも、15歳から49歳までの合計特殊出生率ということですので、もう少し幅を狭めた18歳から40歳までの若年女性人口での数字も出してもらった方が良いのではないかなと感じています。

(中山会長)

その辺りどうでしょうか。事務局のほうで分析とか何か対応できる場所はありますでしょうか。

(事務局)

合計特殊出生率につきましては、市で細かく分析するという事はなかなか難しい部分がございます。

(中山会長)

そうですね。そうすると自由回答欄とかの分析を重点的にやるということではなかなか把握が難しいですか。

(島田委員)

合計特殊出生率については、当管内はかなり低いですね。全県の中で一番低いのは、実は比企地域です。その次に利根地域が低い状況になっております。その原因について、いろいろ考えてはみたのですが、なかなか分からないところが正直なところですが、主には2つ原因があるかなとみており、1つは非婚率が高いというところがあります。晩婚化などの流れの中で、当管内では非婚率が高いという状況があります。もう1つは結婚したタイミングで1回外に出て、子どもを産んでから子どもを連れて地元に戻って来るといったパターンです。そういう方達は比較的いらっしゃるのです。蓮田市はどうかという細かいところまでは分からないのですが、利根地域全体で見ますと、若い世代、いわゆる20歳から29歳までがどんどん外に出て行っているという実態があります。しかしながら、30歳から40歳前半までの子育て世代については、転入超過の傾向にあります。そのような状況を見ますと、出生率が低いのは先程言った、大きくは2つの要因があるのかなとみております。合計特殊出生率の出し方というのは非常に複雑で、難しいようなのです。そのため、先程事務局からお話がありましたが、年齢を絞って出すというのは難しいと聞いておりますので、なかなかそのデータは取れないかなと感じています。

(中山会長)

難しいみたいですね、技術的に。そういうところは、この自由回答欄の枠が小さいのもう少し大きくしていただき、設問の仕方も工夫して、確か年齢は最初のほうで聞きますので、年齢と絡めた分析をすれば、ある程度浅田委員からご指摘があったような、ちょっとこの量では少ないですよ、設問ももうちょっと工夫して。例えば先程非婚率が高いというようなところがありますが、結婚されているかどうかのチェックも聞きましたよね。非婚か既婚か、出来ればそういうのもアンケートに盛り込んで絡めた分析が出来ると、効果的な対策を策定するのに非常に有効なデータになるのではないかと思いますので、ご検討いただきたいと思います。それから委員の中にはまだ子育て世代が何人かいらっしゃいますので、田口委員、いかがですか。

(田口委員)

はい、今うちは子どもが3人いて、今出生率が1.3ということで十分クリアしているのですが、若い人に蓮田に越してきてもらいたいというのは1つなのかも知れないのですが、やはり高齢化に拍車が掛かっているというところでは老後世代の方に蓮田に越して来てもらえるような魅力というものをPRしても良いのかなとは思っています。なかなか我々世代ですと、仕事もしている世代でもあって、どんなにそこが魅力的なまちでも、そのまちに引っ越そうとはならないと思うのです。そのようなことで、定年を迎えられた方が、蓮田に行くところというサービスがあって住みやすいまちだから蓮田に越そうかという人が増えてくるようであれば良いのかなと思いました。この間、お客さんで、蕨で飲食店を営んでいた方がいらっしやいまして、そこはちょっと土地が高いので、そこを売って、不動産屋さんに言われて蓮田の地に越してきたと。蓮田に来て何があるのかなとって、なかなか魅力が分からないというところで、蓮田市役所に行ってガイドを貰ったのですね。そこでいろいろ見ながら、その中では商工会が発行した会社を宣伝するような広告紙があったのですが、それを見て蓮田の地で飲食店をまた細々と再開したいということでご注文もいただいたのですが、そういった老後第2の人生のステージの場として蓮田市に越してきたというような街づくりをしても良いのかなとは思いました。

(中山会長)

ありがとうございました。そうですね、こういうお年寄りと子育て世代を繋ぐのが仕事の創生ということでありますから、蕨から来てくださって、飲食店で仕事がまた生まれて、それで子どもも育つのにここに残りたいとかなってくれば、本当に良い循環が生まれてくるかと思えますね。吉澤委員は子育て世代でしょうか、では何かご意見を。

(吉澤委員)

私も3人子どもがいて、2人の時は地域の人にもっと産め、3人目になったらよくやったと。2と3では地域としてももの凄く大きいのだなと感じました。周りも多くは、お子さんは2人なのですよ。そういった中で子どもをどうやって増やすかということについて、やはりアンケートは必要だと思います。

私個人としてなのですが、つくばのほうに知り合いがいて、しょっちゅうそちらのほうに遊びに行くのですが、つくばも今お子さんが随分増えています。人が随分流れて、そこでまた産んで、という地域らしいのですが、そこで面白いのが、飲食店が必ずお子さんを連れて来た親御さんに個室やら、隔離という申し訳ないのですが、端っこのほうにスペースを作っているというのが印象的でした。蓮田は正直小さいお店が多いですから、そこでちょっとご飯というのは、僕も思わないのですよね。だったらちょっと遠出して、フードコートみたいな広い所で子どもが泣いても気にならないような所っていうふうになってしまいますので、気を使うというか。お金を落とす外食という意味で、気を使うというのが凄くあります。やっぱり今このデータを見ていても、子どもを増やそう、人をどんどん増やそうというのは素晴らしいと思いますが、その後の、例えば私は黒浜地区なのですが、自治会に入っていらっしゃらない方が本当に多いのですよね。人が入ってきました、でも隣の人は誰も知りません、よく分かりません、そうすると人がいっぱい増えても地域の安全、治安という意味では全然守られていないですよ。若い人はそこには全く無関心で、妻が愛育班ということで、お子さんのいる地域へ回っているのですが、愛育班を知らない、地域の流

れや集まりを全然知らないですよ。例えばここに就労支援とか利用したことがありますかってありますが、これも皆さん、たぶん使わないですよ。随分市のやっつけていることと我々末端の市民とで情報の伝達がもの凄く差があるというのを感じます。事実、広報なんか読んでいらっしゃる方が本当に多くて、自分で市役所の窓口来てとか、コンビニに行ってでしか広報を手に入れられない方が私の友達に本当に多いので、出来るだけ人口を増やす後のことを、もうちょっと今のうちから自治会員をどうやって増やそうとかか考えていただければ、その後のケアという意味で良いのかなと思います。

(中山会長)

ありがとうございました。これは恐らく資料7の大きな枠の[5]ですよ。時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るってところで、やはり自治会に若い人達が入ってくれれば、治安の面で非常に安心して暮らせると。危険な所の情報とか便利なサービスが利用出来る情報など、広報が手に入らないので、隔たりが非常に大きくなって情報格差が生じているところですね。確かにこの[5]の質問だけでは、その辺りの手当は一体どうやって出来るのか、心もとないような内容にはなっているかなと。日常のお買い物でと問34にはありますが、では日常の飲食とかかっていう質問はここには残念ながらまだ盛り込まれていませんし、先程廣本委員からも、例えば、家を改築するならどのような改築のプランにしたいですかとか、そんな質問なども本当はこの[5]のところももっと項目として、かなり多くあって然るべきかもしれないというような、今お三方の委員のご意見をうかがって私も感じたところでもあります。

では、寺澤委員も子育て世代ということで、ご意見賜りたいのですが。

(寺澤委員)

うちは一人っ子でちょっと肩身が狭いのですが、このアンケートの最後のほうに、まず設問38の中に、子どもに関するの1つですね。次の問39に関して、7番8番なのですけれども、子どもの数とか年齢とかにおいても、それぞれ思惑がいろいろあると思うのです。平野地区は土地がいっぱいある割には、意外と公園がありません。地域が結構大きいので、公園に行くまで車を使っていくことになります。そうするとちょっとお手軽には行けないですよ。ボール遊びするにしても、家の前ですることになります。道路ですよ、車も通ります。そうすると子どもとのコミュニケーションを作ることも範囲が狭くなりますし、安全面からして伸び伸びと遊ばせるということに関して問題が出てきますので、この設問に丸をされた方が、どのような思惑で丸をされたかも具体的に書ける欄があると良いと思います。

(中山会長)

そうですね。自由回答欄が[7]にあります、これは全体に対してのものから、個別に自由回答欄を、特に問38と問39というのは非常にコアな部分になると思いますので、ここだけで8行位の自由回答欄を作っても良いのかなという感じがいたしますね。家に籠ってないで外に遊びに行きなさいと言いつつ、外に遊び場を作らないという2枚舌の政策を取っているのではないかとご批判がありましたが、確かにそのようなところがあります。改善できるところは改善し、住み良いまちにして、蓮田を盛り上げて行くっていう意味では、やはり問38、39については、このままではなかなか難しいかなと私も感じました。

他に委員からご意見ご質問ございますでしょうか。中里委員のほうから。

(中里委員)

はい、私も廣本委員のさっきのご発言と内容的には同じなのですが、設問の19番から22番の、どうして蓮田を選んだとか、蓮田に住み続けたいですかとか、転居の予定がありますかとか、どういう理由で転居しますかとかっていうところまで来ているのですが、例えば転居しないで蓮田に住み続けるにはどのようなことを施策として行政側が行ったら、まだまだ蓮田に住み続けていられるのかとか、そういうことも一緒に問うてもらおうと、行政側が何をすべきかある程度分かってくるのではないかなという気がするのですが、スペースがあればそれも考えていただければと思います。

(中山会長)

一千万近く掛かるビッグなプランですので、やはりもうちょっと充実させた内容に、個別に自由記述欄を、2000人の自由記述欄ってそんな分析出来ないって、確かにそういう声もあるかと思いますが、せっかくですので、声を寄せていただいた方を汲み上げて、より良い蓮田市をつくっていくという意味では今の中里委員からご指摘あったようなことは必要なのではないかと私も考えます。他に委員のほうからご意見ご質問あるでしょうか。黒堀委員のほうからは。

(黒堀委員)

今まで大体言われた意見なのですが、多分目的が人口を増やすということですので、アンケートをもうちょっと戦略的に分類した方が良いという気がするのです。たぶん人を増やすとなると、まず今いる人を外に出さない。次は今いる人に増やしてもらおう。最後は他の市町村から取ってくるというこの3つだと思うのです。ですから、それぞれの質問の背景がどこにリンクするのか、今は考えつかないのですが、その3つを基本にした後で、市民に問いかけたほうが、より今後の政策の立て方が楽になるのではないかという気はします。

(中山会長)

それは確かに我々研究者の間でもクロス分析するときに回答者に気が付かれないように埋め込むということがありますね。この質問の中にこの3つの柱とか。是非そういう工夫をアンケート調査の中に盛り込んでいただければ。分析者が分かっているならばこの柱で良いので、分析者がこの3つの柱を、実はこの問13のこれとこれに埋め込んでありますとか、そういうふうにやってくざると、後でアンケート結果を集計したときに、単にここは何パーセントですとか言うのではなくて、クロス分析して、じゃあここはどういうふうに捉えて、それでそこだけは自由記述を重点的に見て行くと。それで新しい政策を打っていくという流れが今の中里委員と黒堀委員からの意見を掛け合わせるとそのような方向性が出て来るのかなと。

あとは県のほうから島田委員、たぶん同じような内容になると思いますが、何かご意見とか。

(島田委員)

2つのアンケート調査については目的とか対象が若干違いますので、これはこれで宜しいのかなと思いますが、1回目のアンケートは今調査中で6月15日までとのことですが、速報はいつ頃出る形になりますか。

(ジャパン総研)

いわゆる速報値という数字の表だけであれば、おそらく7月中となります。

(島田委員)

そうですか。ちょっと思ったのは、今せっかく調査中で、最初の調査の結果が速報でもある程度まとまると傾向が出て来るのではないかと思ったのですよね。それで傾向を踏まえて2回目の調査を出来ないのかと思ったのですが、それではたぶんスケジュールが間に合わないということですよ。

(中山会長)

大体予想では事務局でも、このようなものというものがつくのですか。全然全く分からないのですか。ある程度他の市町村でやっている例があって、それで分かるようだったら、もう既に資料6のアンケート速報を待たずに資料7の改編に取り組むことも出来るかと思うのですが。

(事務局)

資料6のアンケートにつきましては人口ビジョンを作成するためのという部分で考えておりますので、資料7のアンケートとはちょっと趣の違う形で2つのアンケートをさせていただいております。ただおっしゃるように、両方のアンケートに重なる部分もございますので、本来もう少し時間の余裕があれば資料6のアンケートを少し加味した上で次のアンケートが出れば一番良いのですが、ちょっと日程的に難しい部分がございます。

(中山会長)

ありがとうございます。それでは他にご意見ご質問。はい、どうぞ。

(吉澤委員)

問20なのですが、蓮田市に住んで良かったことというポジティブなことなのですが、逆に悪かったことを聞いたほうが、統計学は分からないが、僕はそっちから直した方が良いのかなと思ったのですが。良い所ばかり延ばしても、悪いところを置いてけぼりでは、それはどうなのでしょう。

(中山会長)

ありがとうございます。これは本当にもうそうですよね。蓮田に来て大変困ったとか悪かったとか、率直な意見を集めた方が、これは良薬口に苦しということになりますから、是非盛り込んでいただきたいと思います。

他に委員のほうから何か。はい。

(廣本委員)

今面白いなと思ったのですが、確かに作った側が、良いことに決まっていると思って作っていると思うのですね。私もそう思います。実は実際に30年ここに住んでみて、蓮田ってこんなに良い場所なのだというのを実は痛感して、終の棲家にもしたいなと先程お話をしましたが、実は私の今住んでいる場所なのですが、180世帯程の所に真ん中に2つも公園があって、それを取り囲む形でまちをつくっているのですね。これはドイツのボンエルフというまちをモデル化したものをここに持って来た訳です。確かに住んでみると良いのです。これは人と車と子ども達が共存できる危険の少ない街づくりをしようということで造っていますから、当然のように塀は全て生垣しか植えてはならない。いわゆるブロック塀なんかすると、曲がり角の向こうが見えませんか、事故が起こり易い。まちの中では一直線の道路はひとつもありません。全て曲がりくねっております。いわゆる車はスピードを出せない。しかもある程度走りますと、道路が3センチメートル位上がっている所があって、そこへ来るとスピードを

出すとドーンとなる。だから徐行をしながら進まないといけないとか、いろいろなことがある。花壇を道路にせり出して作ったりとか、こういうまちを造ったのは民間の企業ですが、こういうモデル的なまちがあるよというようなことの宣伝がどうも少ないのではないかと。市が行ったかのように宣伝してしまえば良いのではないかと思うのですが、そのようなまちが蓮田市にはあちこちあり、しかも蓮田は行政が頑張ったのだと思うのですが、道路が極めて良いですよ。だからまちが映えますし、今回も夜のためにLEDのライトにどんどん切り替え、夜が非常に明るくきれいなまちになっている。こういう良いまちだということが実はよその人に届いていないのです。要は都心の丸の内で勤務する人に、蓮田ってどこですか。蓮田だって言うよ蓮田ってどこですかと言われてますから。要はそういうことを知らしめて、蓮田ってこんな良い街づくりをしているのだよ、市がこんなに頑張っているのだよって。確かに市の行政の方々が本当頑張っているのがよく分かるのです。ところが内に向かう気持ちが強すぎるのか、外の、丸の内に勤めている人、新宿に勤めている人、都庁に勤めている人が、蓮田がこんなに良い街づくりをしていることを知らないと思うのです。たぶんこれはパブリックリレーションズ（PR）の問題だと思います。広報も素晴らしい冊子を作っていますが、例えばこの会議にも広報の責任者が出ていませんよね。こんな重要な会議に、広報が成り行きを見定めてどういうふうになるのだろうと見ているくらいでないと、これは会議の運営ですから、私が提案する話ではありませんが、要は広報が内に向かうだけではなく、外に向かうパブリックリレーションズ（PR）をもっと強めれば、さっきのベッドタウン的なものの要素を含めてさらに広がっていくのではないかと。逆にいうと、今から何かをしながらというのは非常に大変なことです。例えば工場を誘致する、企業を誘致する、いろいろな子ども達のための幼稚園を造る、これもやりながらですが、何にもやらなくてもパブリックリレーションズ（PR）を打つだけで、私はある程度増えると思います。そこに力を入れる、そういうことが必要だと思います。この会議に出ているかどうかは問題ではありませんよ。ただ本当に蓮田というのは事故も少ない、犯罪も少ない、事件も少ない。こんなまちはなかなか無いのだということを知ってもらう方法を作ったらどうだろうか。これは非常に費用が安く済む話です。是非この会議にプラスアルファしてほしいなと思います。

（中山会長）

今ご意見の出たところは、たぶん問20のところですね。もうちょっと詳しく、やはり個別の自由回答欄をつけて、今のボンエルフの街づくりをやったのが凄く良かったとか、そういうのがあると蓮田市として外に向けて売っていくときの、例えばパンフレットを作るのでも、蓮田市は人口何万人でとか言うよりは、蓮田市にはこんなに良いものがありますという、一行目からそういうPRが出来るような考え方というのを行政の中でどんどん取り入れることが出来るのではないかというご意見だったと思います。是非資料7を充実させたものにしてほしいと思います。

他に何かございますでしょうか。

それでは大体審議もされたと思いますので、特にこれ以上無いようでしたら、そろそろということなのですが、如何でしょうか。

それでは以上を持ちまして本日の議事につきましては終了とさせていただきます。会議の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

<p>4 その他</p>	<p>(田島調整幹) 中山会長ありがとうございました。また、委員の皆様には貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。最後、次第の4、その他といたしまして、事務局から2点程確認事項がございます。</p> <p>(事務局) 1点目は議事録についてでございます。蓮田市附属機関等の会議の公開に関する要綱によりまして、会議録を作成し、ホームページで公開することになりますが、作成後内容の確認につきましては会長さんにご一任という形をお願いしたいと思うのですが、如何でございますでしょうか。</p> <p><「はい」の声あり></p> <p>ありがとうございます。続きまして2点目でございます。次回の会議日程でございますが、先程申し上げましたが次回はアンケート等の調査結果の集計等もでございます。そういったこともございますので、8月の中旬から下旬頃を予定しております。詳細につきましては、調整後改めてご連絡させていただきたいと思っております。</p> <p>また、会議の開始時刻について、今回は午前中だったのですが、日中ではなくて夕方の時間帯のほうが集まり易いというご意見を多くの委員の皆様にお聞きいたしました。次回の会議からは中山会長とご相談させていただきますが、夕方の5時頃での開催で如何と思っております。その辺如何でしょうか。</p> <p><異議なしの声あり></p> <p>では次回からは5時頃の開催という形で進めさせていただきたいと思っております。それと口座振込の用紙を最後に集めさせていただきますので、宜しくお願い致します。</p>
<p>5 閉会挨拶</p>	<p>(田島調整幹) それでは以上を持ちまして、本日の議事は全て終了いたしました。閉会にあたりまして浅田副会長から閉会のご挨拶をお願いします。</p> <p>(浅田副会長) まずは、皆様貴重なお時間をいただきお集まりいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>吉澤委員も田口委員も3人ということで、私は2人の子どもがおりますが、もう1人ということで、2年の任期のうちにもう1人何とか家族会議を開きたいと思っております。青年会議所といたしましても、冒頭にありました元総務大臣増田寛也さんの地方消滅という、2040年までに896地方自治体が消滅可能都市としてショッキングなレポートが出されました。青年会議所としても最重要課題として今取り組んでいるところで、政策コンテストとして、今各地697青年会議所のほうで地域にまつわる政策アイデアを募っているところでございます。今回のアンケート集計にはちょっと間に合わないかもしれませんが、全国各地の会議所の中で出たアイデアを少しでも蓮田に何か活かさせないかというところを少しずつご紹介していければと考えております。東京一極集中を是正し、転出を無くしていかにか転入を増やしていくかということが重要かと思っておりますので、次回また意見交換をまた出来ればと考えております。本日はどうもありがとうございました。</p>

(田島調整幹)

それでは閉会といたします。本日はありがとうございました。